日中
おかやま
題字 故原田 親
No. 1005
2023/9/15
日中友好新聞

第100期の太極拳講習会を目指して心機一転！

7月から太極拳講習会の会場が、天神山文化プラザに変わりました。エアコンが良く利いて交通の便もよく快適に練習しています。8月からは、講習生が2名増えて活気が出てきました。

日中友好協会岡山支部の太極拳講習会は1980年から太極拳の普及を始めました。今年4月からは、第99期の講習会をしています。

継続は力なり！灌漑深いです。しかし、普及40周年は、予定していた記念行事がコロナ禍で中止になりました。そこで、10月からの第100期を記念して、記念Tシャツを製作中です。第100期講習会からは、記念Tシャツで練習できそうです。そして、来年3月23日、24日には、祝賀会と記念講習会も企画中です。

県外からも多数の参加が予想されます。過去に受講していた方々にも、ぜひご参加いただけたらと思っています。

40年間続けている私自身、歳をとればとるほど太極拳の良さを実感しています。この機会に、多くの方々に太極拳を始めていただけると嬉しいです。

毎週水曜日18時30分から2時間、天神山文化プラザで練習しています。

3回まで無料で体験できますので、気軽に覗いてみてください。

お申込みお問い合わせは、
090-3633-5714(青木)まで！

青木正美

第14回中国百科検定受験者募集中

第14回中国百科検定の受験受付が始まっています。

今回の検定は岡山支部でも会場があります。さらに、初級から特級までの全級が受験可能です。

ついでに検定後には有志での打上げも計画しています。

「なんてお得なんでしょう！！」

「これはなんとしても受験しなくては……！」

と、多くの方が考えられたことでしょう。

前回の日中友好新聞にリーフレットが折り込まれていたはずですので、すみずみまでお目通しのうえ、抜かりなくお申し込み下さい。

また、中国百科検定、興味はあるけれど、お勉強はちょっと苦手なのよねぇ～。と受験をためらっている方に朗報です！

なんと！ 岡山支部では、9月10月11月の第3日曜日の14時から、岡輝公民館で中国百科検定の勉強会を開催します。勉強会に参加してからでも、申込みは十分間に合いますので、ぜひご参加下さい。

発行所
日本中国友好協会
〒111-0053
東京都台東区浅草橋 5-2-3
鈴和ビル 5 階
電話 03(5839)2140(代)
FAX 03(5839)2141
http://www.jcfa-net.gr.jp
E-mail:nicchu@jcfa-net.gr.jp
振替 00110-1-23176

日中友好協会
岡山支部
〒700-0034
岡山市北区下伊福
西町1-53 民主会館1F
TEL・FAX(086)256-5606

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福田町浦田2461-41
TEL・FAX(086)455-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.iinaa.net/
メールアドレス
nicchuokayama@yahoo.co.jp

映画「やまぶき」を観て

真田紀子

9月9日(土)さん太ホールで、市民のつどいの映画 やまぶき」を観てきました。

映画は韓国から働きに来ているユン・チャンスと、刑事の父を持つ女子高校生山吹の二人の日常が、真庭市の風景とともに描かれます。

岡山駅が登場したり、津山の鶴山公園が登場したりと、私たち岡山人には嬉しい映画となっています。ぜひ一度観てください。考えさせられる内容でした。

映画上映後、監督の山﨑樹一郎さんのトークイベントがあり、とても興味をひかれる話でした。

“大阪出身なのに、真庭市に移住して農業を営んでいる。表現をする者が、生の基本である食のことを知らなくてよいのかという問いから農業をすることを選んだ。真庭で地域おこし協力隊員として暮らしていた主役のカン・ユンスさんと出会い、構想が浮かんだそうだ。

日本が貧しくなり、全国各地からミニシアターが消えていく現状を考えると、映画はやはり会場で、他の人々と同じ空間で観てほしいと思う。“

私の引揚体験(その3)

倉敷9条の会　会員　　朝倉　彰子

４．８条通りで

撫順市内では国府軍と八路軍による戦闘が繰り広げられていました。

ある日は八路軍、翌日には国府軍と勝者がめまぐるしく変わりました。

母は八路軍が勝つと玄関の軒に赤い布を掲げ、国府軍が町を制圧すると急いで赤い布を仕舞う、それが毎日の様で大変忙しかったそうです。

隣の家の大学生、武田のお兄ちゃんが、国府軍の兵士に丸太で殴られた現場を見ました。

戦地に行ったお父さんが残していった万年筆を兵士に渡すのを拒んだからでした。なんども殴られ太い丸太が真っ二つに割れました。大けがをした武田のお兄ちゃんは国府軍に連れて行かれました。私は一部始終を見ていました。あの光景は忘れることができません。

八路軍が撫順市を制圧すると母たちはすぐに武田のお兄ちゃんを迎えに行きました。

武田のお兄ちゃんは引揚の日も歩くことができず、荷車の上から私たちにさよならを告げました。

私たちは最初は市内の叔父の家に移り、まもなく八条通りの叔父の会社の社宅に移りました。そこは長屋になっていて、隣家との境は押入れで、そこには大きな穴が開いていました。私たち子どもは、その穴から隣の家に行ったり来たりして遊んでいました。その穴は布団を仕舞うと外からは分かりませんでした。暴徒に襲われたときに、押入れの穴を通って隣家に逃げ込むためにわざと開けられていたそうです。引揚の日まで、母は手作りの人形や油揚げ、大福もちなど街角で売って暮らしを立てていました。

市内の学校は各地から逃れてきた人たちの収容所になり、多くの人たちが栄養失調や病気で亡くなっていきました。その人たちを埋葬するため、まだ中学生だった兄が私たち家族を代表してその任にあたりました。来る日も来る日も穴を掘り、亡骸を入れる。思春期の只中にあった兄にとっては余りにも過酷な体験でした。敗戦後の撫順市内でも、引揚途中の収容所でも遺体を埋めるための穴を掘り、遺体を置き、さらに引揚船の中でも兄は遺体を安置場所に運びそれをまた甲板に運んで海に水葬する、その8か月に渡るその悲惨な体験を逃れるためか、兄は永い間その記憶を封印していました。

日本人に抑圧されていた中国人が各地で暴動を起こし、「うおー」という大地をも揺るがす地響きに似たうなり声をあげて迫ってくる有様に兄は恐怖を感じたそうです。

いつ暴徒が私たちの家を襲うかわかりません。母は手りゅう弾を庭先に埋めていました。

いざという時、自決するためです。姉たちは母から相談を受けたそうです。

姉たちは、「お母さんと一緒に死ぬ」と言い、兄だけが「僕は一人でも逃げて日本に帰る」と言ったそうです。5歳の私にはその記憶はありません。

私は、家のすぐ前で、近所の女の子たちとままごとをして遊んでいました。神社のある 10 条通りには絶対行ってはいけませんよ。子とりーひとさらいーが来るからと母からきつく言われていました。実際、あちこちで日本人の子どもが連れ去られるできごとがひんぱんにありました。

ママごとをしながら私たちが歌っていたのは、比島決戦の歌で、最後のフレーズ、

「でてこい　ミニッツ　マッカーサー　出てくりゃ　地獄へ　さかおとし」

でした。子どもたちに大人気の軍歌でした。1945 年3月に、西条八十作詞、古関裕而作曲のこの歌を、戦後になっても歌っていたのです。他にも軍歌をまだ歌っていましたが、生きていくのに忙しい大人たちは、子どものままごと遊びの歌にはかまっておられなかったようです。

日本国内では、マッカーサーは歓迎されていたようですが、満州にいた私たちにとって戦後もマッカーサーは憎むべき敵の大将でした。沖縄のことを想うとマッカーサーを今でも許すことはできません。

※ 次号へつづく

次回の新聞発送作業は
9月28日(木)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

池田　飼井　田内
犬河　真竹